

総評（2024年3月5日実施）

昨年（2023）と比べて国語が解きやすくなったため、その分、5教科トータルの平均点は上がる見込み。県発表の予想平均点（およそ170点）より若干高くなりそう。ここ数年、数学・英語が難しくなっており、点数の差が開く教科になっているため、特に上位層は実力アップと傾向把握と対策が必要。教科書をベースに丁寧に深く理解し、その場での思考力を試す問題や資料と条件に合わせて過不足なく表現するといった総合的な学力が試されている。

各教科分析

	2024年3月 福岡県公立入試問題分析	次年度以降の対策
国語	<p>大問構成は昨年と同じ。昨年と比べると記述が簡単になり、非常に解きやすいものとなっている。大問3の古文・漢文で差が出る。</p> <p>大問1（説明的文章）</p> <p>（1）人間が自由であるために必要な力、世界を変える力は何かということを書いた文章。全体的に易しい。記述もほとんどが書き抜く問題で、問五のみ考えて書く問題。しかし指定語句があるので、どこを探せばよいか見当はつけやすい。</p> <p>（2）は前年度と同じ形式。本文の内容が半分以下になったことでかなり解きやすいものとなっている。問われる言語事項は基本的なものばかりであった。</p> <p>大問2（文学的文章；小説）</p> <p>陸上部に所属する高校生が主人公の話。受験生と年齢が近く、共感しやすい設定だった。考えて書く記述問題について、昨年は三十字程度の記述が二つ、十字程度の記述が一つだったが、今年は五字の記述が一つだけ。本文の読みやすさと相まってかなり簡単になっている。</p> <p>大問3（古典）</p>	<p>①現代文について</p> <p>最近の国語の入試問題は本文が長く、とにかくスピードが要求されます。自分のペースで読んでいると、最後まで解き終わらなかったということもよくあります。そのため、普段から文章を読むことに慣れておくことが大切です。また、筆者の主張が何か、どのような論理で読み手を納得させようとしているか、具体例はどんな意見・主張を例えたものか、登場人物は何がきっかけでそのような言動をしているのか。そのあたりを意識して読むことが大切です。この点、入試問題の読解は、自由にリラックスして読む、趣味の読書とは性質がまるで違います。速読ができて、内容が理解できていないなら、何度も読み直すことになります。したがって、速読と精読を両立できるように訓練をしましょう。そして、読解問題を解いたら必ず解説を読みましょう。答えがあっているかどうかは、さほど重要ではなく、正しい論理で答えにたどり着いているかが一番大切です。</p> <p>②古典（古文・漢文）について</p> <p>古典は最も得点率が低いため、ここの出来次第で大きく差をつけることができます。古典に取り組む時間を十分に取り、準備をしたいところです。まずは、文章に読み慣れるところから始めましょう。具体的には、歴史的仮名遣いの読み方をマスターし、スラスラ読めるようになります。詰まりながら読んでいては、内容を理解できません。次に、大まかな内容を理解できるようになります。この時、主語に気を付けるようにしてください。</p>

前年と同様、漢文の書き下し文とその現代語訳から出題。二つを読み比べながら確認していけば、それほど困らずに問題は解いていける。

大問4（条件作文）

第一段落には二つの読書に関するグラフを選び、考えたことを書くもの。グラフを読みとめることは前年と同様だが、グラフの数が減ったことと、資料の情報量が少ないことから、混乱する受験生は少なかつただろう。また、第二段落は、読書量を増やす取り組みの案を書くものであり、比較的考えやすい。

い。古文は主語が省略される傾向にあるので、そこを取り違えるとまるで違う物語になってしまいます。そして、古典を読んだ後は必ず現代語訳を確認し、自分の認識とのズレをなくしていきましょう。最初は、古語や昔の人々の価値観が理解できずに苦戦すると思いますが、だんだんと慣れていきます。

③作文について

作文上達の方法はいたってシンプルで、とにかく書くことです。ただ書くだけでなく、書いた作文を塾や学校の先生に添削してもらい、より良い表現に改善しましょう。

④最後に

近年では、どの教科も長文を読んで、何が問われているか理解し、必要な情報を抜き出し、答えを導き出すような問題が増えています。つまり、国語の力はすべての教科に横たわる重要な力です。しっかりと取り組めば実力は確実についていきます。いきなり入試レベルの問題を解く必要はありませんが、読解問題に取り組むようにしましょう。正しく読むことができるのは正しく書くことができるからです。その反対も然りです。読む力と書く力は表裏一体でどちらかが欠けると成り立ちません。わからない単語が出てきたときはもちろん調べてください。しかし大事なはそのあとに、その単語を使って文を作れるまでにすることです。

数学

大問数は6題で構成も例年通り。大問2は方程式から確率に、大問3はデータの活用から文字を使った説明に変更。全国的に出題されている箱ひげ図は今年は登場せず。

大問1 計算・小問集合

計算から方程式、標本調査、データの活用など9問。関数のグラフをかく問題は毎年出題されている。平易な問題ばかりなので確実に全問正解したいところだ。

大問2 確率

(1)は取り出した玉を袋にもどすという点と、「少なくとも」という表現に注意して確率を求める。(2)は(1)と違い、取り出した玉を袋にもどさない場合の記述式の問題。正しく樹形図を書くことができれば、AとBともに同じ確率になり白玉の出やすさに違いはないという結論になることがわかる。

大問3 文字を使った説明

連続する整数の性質に関する問題が4問。

(1)～(3)は易しめ。(4)については連続する4つの整数を、 $n, n+1, n+2, n+3$ といったように文字を用いて考えることで解答にたどり着きやすい。問題自体は難しくないので、ここを素早く正確に処理していかないと後半の大問を解く時間が足りなくなってしまう。

大問4 関数の利用

毎年出題される関数の利用問題。昨年は1次関数と2次関数の融合だったが、今年は1次関数のみ。(2)は傾きや切片の大小関係に気を付けて解いていく。(3)はグラフにC社のグラフを書き足すことでイメージしやすい。2直線のグラフの式を求め交点を求めていく。このパターン問題はここまで数多く解いてきたはずなので正解したいところ。昨年よりも易しめ。

大問5 平面図形

(1)は垂線の作図に関する問題。(2)の三角形の相似の証明で直角はすぐに示せるが、もう1組の角が等しいことを示すのが難しい。(3)は円周角の定理の逆に関する問

数学は毎年ほぼすべての単元から出題されています。大問ごとに、基本レベルの問題から応用問題へと段階的につくられており、特に図形の後半の問題に関しては相当な訓練と応用力が必要となります。上位校を目指す人は図形がポイントとなっていきますので、早いうちから難しい問題にもチャレンジしていきたいところです。

・大問1が得点源

大問1の計算・小問題は全得点の約 $1/3$ (18点)を占めています。幅広い領域からの出題となりますが、基本的な問題ばかりです。正確に素早く解くことが要求されますので、ミスが多い人はまずその原因をきちんと理解し、早めに修正していくことが重要です。ミスはミスで終わらせないこと。また、日頃から見直しをするクセもつけておきましょう。

・題意の読み取り

ここ数年、「ん？どういう意味？」と受験生が思わずつぶやいてしまいそうな問題が多くなってきました。「時間が足りなかった」という原因の一つがこれです。普段の学習の中でもそういった場面に出会ったとき、すぐに人に聞いたり、解答・解説を見たりするのではなく、繰り返し問題を読んだり、図や表にまとめたりし、題意を的確にとらえていくという訓練が必要です。

・データの活用の問題

今年はデータの活用に関する問題の割合が少なかったのですが、全国的に見ても年々増えてきており重視すべき単元です。まずは基礎用語の理解とグラフの読み取りを確実にマスターしましょう。またデータを比較する問題では、なぜそうなるのかの理屈を納得いくまでトコトン追及していくことが大切です。できればここも得点源にしていきたい箇所。

数学は積み重ねの教科です。まずは今習っている内容をしっかりと理解し身につけていくことが一番大切です。定期テスト前もきちんと準備して理解を深めていくことを意識していきましょう。この積み重ねが中3で受験勉強を始めるときに大きな差となっていきます。また前学年までで苦手となってしまった単元は必ずさかのぼって復習する時間を作ってください。数学は「練習量」と「繰り返し」です。

題。内接四角形が作れるという点に気付きたいところ。(4)は面積。相似と三平方の定理を上手く用いて解いていく。例年よりも易しめだがそれでも難易度が高い。

大問6 空間図形

(1)は直方体の辺や面の位置関係を問う問題。ここは正解したいところ。(2)は最短距離。展開図が長方形にはならない点に注意。正確に書いて、相似と三平方の定理を用いて解いていく。(3)は例年通り最難問。

大問別にみると、1、2、4は易化、5、6は難化、3は例年通り。全体的には昨年と同じくらいか。しかしながら変わらず問題量が多いため、時間が足りなかったと感じた受験生が今年も多数出ただろう。

<p>社会</p>	<p>歴史・地理・公民とバランスよく出題、大問1と2が歴史(20点)、3と4が地理(20点)、5と6が公民(20点)であった。昨年と比べて基本的な用語を答えさせる出題が増え、記述形式は減少。過去に出題された問題と同じ出題もあり、過去問への取り組みが必須であることは間違いないが、ただ、新出内容も各分野に散りばめられているため、過去問だけでは50点以上の高得点は難しい。全体として、大問構成や配点等に大きな変更はなかったが、傾向の変化は見てとれる。例えば、歴史分野では、戦後の現代史に絡む出題が増え、記号選択問題では以前と比べて細かな知識を要求されている。地理と公民は、基本的な問題と高度な内容とのギャップが大きい。初見であってもその場で考えて解けるような配慮もあるため、答えにたどり着いたかもしれない。トータルで昨年の平均点より数点上がる見込み。近年のトレンドであるSDGsに絡んだエシカル消費や高齢化に伴う社会保障の問題、環境問題やパリ協定等、時事的な要素も含めて、世の中に対する関心や学習素地が求められている。</p> <p>大問1 歴史(古代から近代まで) 従来は略年表とカードを使ったパターンだったが、簡略化された形式に変更。問4、問5、問6の記号問題が難しく(それも両解)、逆に記述が平易。田畑永代売買禁止令や幕末の金流出等、今後少し踏み込んだ内容まで触れていく必要がある。</p> <p>大問2 歴史(近現代) 戦後の現代史や近年の環境問題等がほとんどを占めており、歴史と公民(第1章;現代社会)との融合問題のような形で出題されている。今後も要注意。</p> <p>大問3 世界地理 問1(赤道と日本標準時子午線との交点</p>	<p>社会科は知識事項の暗記がベースとなりますが、それだけで入試で高得点が取れる教科書ではありません。教科書内容を確実に理解し、定着していればそれで十分ですが、定期テストと入試とでは範囲も全く異なりますし、一問一答ではなく、1問を解くために自分の持っている知識や経験を総動員する、それぐらいの感覚が必要です。</p> <p>地理・歴史・公民、配点は20点ずつ均等ですが、例年、「公民が難しかった」という受験生の声が多く聞かれます。これには中3の6月頃まで中学校で「歴史」を勉強しており、公民の教科書に入るのが遅くなっているカリキュラム的な要因が挙げられます。夏以降、受験勉強期間と重なるため、公民は勉強量が不足しがち。私たちの生活と直結する内容や時事的なテーマも多いので、日頃から世の中の動向に興味をもつように心がけましょう。</p> <p>一問一答で丸暗記できたとしても、時間が経てば忘れてしまいます。賞味期限の短い学習をやめて、テストのたびに復習したり、やり直したりして、教科書に戻ってチェックするといいいでしょう。また、授業中の先生の話をよく聞き、その先を想像することも勉強においてとても大切なことです。今年は直前1ヶ月で配付した授業プリントや県プレ入試、過去問集、直前チェック冊子からたくさん(約6割)出題されました。分析と研究は私たち(塾講師)の仕事、受験生のみんなは渡していく課題にきっちり取り組んでください。現中2のみんな、頑張ってください。</p> <p>◆歴史 まずは「用語(教科書の太文字)」を正確に理解し、書けるように。そして、自分で説明できるようにしましょう。自学ノートを活用して、まとめるといいでしょう。</p> <p>◆地理 資料やグラフに慣れ、分析する目を持つことを心がけましょう。また、教科書だけでなく、テレビやインターネット等で知りえた視覚情報も役立ちます。</p> <p>◆公民 世相を反映した出題が増えてますので、ニュースを見たり、新聞を読んだりして、自分なりの意見を持つるといいですね。大人になる準備として公民の学習はとても大切です。政治や経済は、知れば知るほど面白い世界です。</p>
-----------	--	---

	<p>を選ぶ問題)は間違えそうな問題。ただ、中国の「経済特区」は2年前も出題されているし、モノカルチャー経済やEUの箇所もさほど難しくない。問2の各州の特徴(人口と穀物生産量の割合)から判断する記号問題が難。</p> <p>大問4 日本地理 資料が多いため、一見難しそうであるが、内容としては平易。</p> <p>大問5 公民 例年と比べて、憲法(人権)と政治分野が多い。問5の経済分野、直接金融と間接金融の出題は初出題、この問題は難易度が高いが、図があるため「家計」を使った記述も書きやすくしてある。</p> <p>大問6 公民 SDGs 絡みの環境問題、エシカル消費がテーマ。資料を読み取り、関連付けて記述する問題。</p>	
理科	<p>生物分野、化学分野、地学分野、物理分野から大問2題ずつの、合計8問の構成は例年と変わりなし。1年生内容が2題、2年生内容が3題、3年生内容が3題とバランスよく出題された。全体的に基本的な内容を問う問題が多く易しい印象ではあるが、一部記述がやや書きにくいのと、問題文を丁寧に読み込まないと間違えやすい問題があり、難易度は昨年並みと思われる。</p> <p>大問1 (生物分野) 動物の分類に関する問題</p> <p>問3(1)の(D)は、体表の特徴の違いから両生類よりハチュウ類の方が「乾燥」に強いという語句を答える。(2)の記述は胎生がどのような生まれ方であるかを正確に説明できるかがポイント。</p> <p>大問2 (生物分野) 植物の光合成に関する問題</p> <p>問2は実験の考察に関する問題。実験の手順と結果をよく読んで丁寧に解くことが必要。問3の対照実験に関する記述は指定語句が</p>	<p>理科は分野別・単元別に出題されるため、努力次第では高得点が狙いやすい教科です。と同時に苦手な生徒も多い教科でもあります。差が付きやすく合格の分岐点と言えるでしょう。次の点に気をつけて取り組みましょう。</p> <p>☆公立高校入試合格のための理科の勉強法</p> <p>①知識をしっかりと固める。 すべて教科書内容から出題されます。基本的な語句、実験における注意点(本年度は駒込ピペットの細かい使い方について出題されました。大問4の問2)、化学反応式等教科書をしっかりと読み込むことが大切です。</p> <p>②読解力+記述力 対話形式の問題や誘導がある問題が多く出題されます。しっかりと問題文を読み、問題の意図を読み取り、正確、かつ簡潔に表現する力が必要となります。福岡県公立入試においては避けては通れません。すぐに身につく力ではありませんので日頃からしっかりとした答案作りを心掛けましょう。</p> <p>③正確な作図力=注意力</p>

「光」であるが、問題文中の「光合成で使われる物質」や石灰水の変化から「二酸化炭素」という語句を書く必要がある。

大問3 (化学分野) 酸化銅の還元に関する問題

問1の記述も含め、いずれも基本的な内容で易しい。塾生は直前にも化学反応式をチェックしたのですべて正答できたであろう。

大問4 (化学分野) 中和に関する問題

問2はこまごめピペット使用時の注意点に関する問題。実験器具の使い方については日頃から教科書をよく読んで確認しておきたい。

問3の液中のイオンの種類と数を作図する問題では水溶液がアルカリ性であることに注意。問4の作物の成長と土のpHについての問題は消石灰の水溶液(石灰水)がアルカリ性であることを踏まえて解く。

大問5 (地学分野) 地層に関する問題

語句、記述ともに基本的な内容。問1は最も新しい地層を聞かれていることに注意。問4のうすい塩酸をかけたときの反応の違いから「石灰岩」と「チャート」を見分ける記述は指定語句を用いて丁寧に書きたい。

大問6 (地学分野) 天体の動きに関する問題

4問中3問が記述。内容は難しくないが、会話文中にあてはまる内容を書く形式のため、問題をよく読み、正確に答える必要がある。

大問7 (物理分野) 力の大きさとばねののびに関する問題

問3のグラフの作図は値を・で示すという指示に従い、丁寧に解きたい。問4の計算問題は、力の分解の作図を正確にした上で考える必要がある。

大問8 (物理分野) 回路と電流に関する問題

問1の「導体」という語句は基本的な内容ではあるがあまり頻出ではないのでうまく思い出せたかどうか。問2の電圧計の問題は+端子につなぐ導線、-端子につなぐ導線をそれぞれ注意する必要がある。問4の計算問題はやや難。まず電熱線aの抵抗を求める必要があ

グラフを正確に書く力が必要です。(本年度の問題では原点にもデータがあるため、原点にも点を打つ必要があります。大問7の問3)作図の問題では目盛りが与えられているため細部まで慎重かつ正確に値を取る必要があります。これも日頃から磨いていきましょう。

④計算力

福岡県の公立高校入試ではさほど多くは出題されませんが徐々に量と難易度も上がってきています。最初に求めた値を繰り返し用いて計算する問題や作図の結果を基に計算を行う問題等、形式が変わりつつあります。その場に応じてどう求めるかを判断し計算する力が必要です。

⑤実験・観察の考察

出題の大部分が実験・観察に関する問題です。内容・目的・器具の名前と使い方、注意点などすべてが出題対象です。実験・観察をまとめたノートを作っておくと便利です。

以上のように理科には難問はありませんが、幅広い、また深い理解が必要です。日頃から取り組み、力をつけていきましょう。

【中2生へ】

入試まであと1年、今すぐ始めましょう。まずは苦手分野から。上位校では高得点が求められます。苦手分野の克服は絶対条件です。また丁寧さも必須です。雑な答案が一番ダメ。1問1問を丁寧に解いていく姿勢を大切にしましょう。

【中1生へ】

中1・中2内容から半分以上が出題されます。履修中の単元の理解度を深めることが大切です。浅い理解は役に立ちません。教科書をよく読み、わからない箇所は参考書などで調べる姿勢が大切です。

	<p>る。1A=1000mA であることも確認。</p>	
英語	<p>難易度は例年並み。リスニングの一部と長文の英問英答の出題の仕方で傾向の変化が少しあるが、きちんと英語力をつけてきた受験生ならば特に慌てるようなものではない。語彙についても、新教科書で扱われる少し難しめのレベルの英単語にも慣れてきたようで、塾生の多くは普通に対応できており、問題自体も受験生を大きく動揺させるような難問はなかった。リスニングのできと、無駄な失点を最小限に抑えられたかがポイントになる。</p> <p>リスニング</p> <p>問題2はこれまで(1)と(2)が別々の問題だったが、今年は同じ地図について2つの質問に答える形式だった。それ以外は形式、難易度とも例年並み。問題4の問2は4年続けて疑問文を作るもので、今年は映画作りについてなので、難しい内容になり過ぎないように注意したい。読まれる文と文の間隔が短く、考えたり書いたりする余裕がないという声が多い。</p> <p>1 (対話文選択)</p> <p>対話文の空所補充問題で形式は例年通り。会話をしている状況と人物それぞれの立場を正しく把握することがポイント。3は「コーヒーはいかが?」「はい、お願いします。今日のロンドンの天気はどうですか?」と一見、流れが不自然に見えるが、話者にFlight Attendantと書かれてあり、飛行機内での客室乗務員と客の会話だとわかればスムーズに解ける。会話文では内容の前に話者を確認するようにしよう。この先の問題は難易度が上がるので、ここで確実に取っておきたい。</p>	<p>①英単語</p> <p>学校の教科書に出てくる英単語は確実に意味を覚え、できれば書けること、そして英文の中で正しく使えるようにしていくことです。英単語テストがある時だけ覚えるのでは必要な語彙力を身につけることはできません。国語の漢字や語句と同様に、知らないものが出てきたら自分で確認する習慣をつけましょう。</p> <p>まずは何となく意味のわかる英単語の量を増やしていくことからです。英文を読んでいく時には、全ての英単語の意味がわからなくても、大きな流れを捉えていくことを優先することも大切です。しかし、いい加減な覚え方ばかりしてはダメで、新しく出会った英単語は、発音・アクセント、品詞(名詞・動詞・形容詞など)、意味、使い方(実際に英文の中でどう使うか)など、意味以外のこともチェックする習慣をつけましょう。今年のリスニングでも、decide、introduce、opinion、expressなどは聞いた瞬間に認識できるレベルにしていないと対応できません。英作文でも意味だけしか知らないと正しく書けません。例えばgoは〈go to + 場所〉の形で使うけれどvisitは〈visit + 場所〉の形になるなど。英単語の力は(1)確実に使いこなせるものと(2)何となく意味がわかるものとの成り立っていて、(1)も(2)も両方とも増やしていく努力を続けることです。覚える時も、見る・聞く・声に出す・書く、と五感をフル活用しましょう。</p> <p>前置詞(in, for, with, byなど名詞の前に置いて意味を加えるもの)をどれくらい知っているか、使えるかも差がつく要素で、場所や時を表す基本的なものに限らず、through～(～を通して)、as～(～として) among～(～の間)なども入試で何度も出ています。</p> <p>②英文法・英作文</p> <p>英会話などが瞬間的なものだからルールとか考えるより感覚だと言っても、中学の英文法は基礎の基礎です。「何となく」をできるだけ減らし、立ち止まって正しく理解し、ルールに基づいて英文を読んだり書いたりする</p>

2 (対話文読解)

英語の授業中にプレゼンテーションのための調査について先生と生徒が話している場面に関する問題。

問1の語句整序問題の形式は数十年同じ。①は現在完了進行形〈have been + ~ing〉で易しめ、②は第4文型の〈give + 人 + 物〉と、〈主語 + 動詞 ~〉が名詞を後ろから修飾する表現の組み合わせだが、ちくしん生は繰り返し練習してきたので、両方正解の生徒が多かった。

問2は空所補充問題。話の流れと空所の前後の内容を押さえれば難しくはない。

問3の(1)は授業の振り返りを生徒の1人がタブレットに入力した文章についての問題。問3はその空所に入る正しい文を選ぶものだが、文意がやや抽象的なのもあって間違えた受験生も多いだろう。イ「他のグループと話すのが×難しい」、ウ「この地域の歴史を×自分で調査する」、エ「調査にはインターネットを使うのが×最も良い方法」など、選択肢の誤った部分を探して消去法で正解を特定するとよい。(2)は本文と振り返りの内容から生徒のプレゼンテーションの適切なタイトルを選ぶ問題。考え過ぎず素直に選ばばよい。

3 (エッセイ文読解)

形式は例年通りで、難しめの英単語が多いのも同様だが、ストーリーがわかりやすかったのもあり、昨年より読み易い。

問1は本文のIt'll be a good []。(それは良い[]になるでしょう。)という文の空所に入る適語を選ぶ問題。expression(表現)、instrument(器具・楽器)、experience(経験)、friendship(友情)と、やや単語が難しめだが、その前に「今年の夏にアメリカの兄を訪ねてはどうか?」とあるので、experienceだとわかる。

問2は内容についての英問英答で、留学中の母を知るピザ店の男性が驚いた理由を答える

姿勢を持ちましょう。自学の時に、その確認を丁寧に行うようにしておけば、テストの時や実際に英語で話す時にも瞬間的に正しい文が作れるようになります。

最近の傾向としては、英文の流れに沿った英文を考えて書く問題が増えているので、自分の表現の引き出しを増やするという努力が必要です。私立高校入試でも、日常的にくださった日本語の会話を英文に直す問題が出ますが、その際も日本語をそのまま英語にするのではなく、その状況に合った英文を作るのがコツです。

(例)宿題が終わっていないのに映画に行こうという友人に対して言う「優先順位が違うよ。」なら、You should do your homework first. (まず宿題をするべきだ)のような感じです。正しい英文を書くこと、そして、その時々状況に合った英文を書く練習が必要です。いろいろな英文を読んだ時に、自分が使うことも想定して学ぶ姿勢を持ちましょう。

③英文読解

まずは教科書の英文を徹底しましょう。

(1)音読：教科書の英文はQRコードで音声を聞けるので、聞きながら読む。音声に少し遅れて音読する(シャドーイング)。

(2)和訳：英語から日本語に直せるようにする。最初は和訳を書き、誰かに正しいか確認してもらう。その後は英文を読みながら、頭の中で正しく意味を言えるか確認する。

(3)英訳：英文の和訳から逆に英文を書いてみる。間違えた部分やわからなかった部分を復習し、覚えたり理解したりする。全部の文をするのは大変なので、自分のレベルによって調節しましょう。

(4)その後は間をおいて時々(1)~(3)を行い、定着させる。

また、英語の問題集などを使って、初めて見る英文を読んだり問題を解いたりする練習も行っていくと、さらに読解力を鍛えられます。その場合も1度だけで終わりにせず、答え合わせや和訳の確認をした後で、何度も読み返すようにしましょう。塾のテキストには長文問題にもQRコードが付いているので、長文を読む練習だけでなく、音声も聞いてリスニング練習に活用してください。

④リスニング

リスニングを他の勉強と分けて考えずに、英単語や英文法、そして英文読解の勉強をする時にも、上記のように聞き取りや音読を組み合わせることで英語

問題。例年のように答えにあたる本文の箇所を引用して答えられないため難易度高め。前の部分の（男性）Are you Tomoko's daughter?（ゆみ）Yes, I am!というやり取りから、He found(knew) Yumi was Tomoko's daughter.などといった文を自分で作る必要があるので正答率は低くなりそう。

問3は my dream の具体的な内容を日本語で記述する問題。答えにあたるのは直前の I want to share them through photos.の文だが、them が、さらにその前の people have their wonderful memories の「人々の素晴らしい思い出」を指していることを明確にして答える必要がある。このようにして答えさせる問題は過去にも出題されたことがあり、日頃から英文の意味をとる際に文中の代名詞が指すものが何か確認する習慣をつけておきたい。

問5の英問英答（自由に考えて答える）は What will you do if you find your old photo? という質問に対する答えを書くもの。昨年は仮定法を用いた文だったが今年は普通の条件文となったので、英文自体は I will～で始めればよいが、どんな内容を書くかで悩んだ生徒が多かったようだ。

4（自由英作文）

30語以上の英語で書く自由英作文。留学先での友人との会話で、日本を訪れるのは8、10、12月のいつがいいか答える問題。「自然を楽しみたい」と言っているので、内容に含むように注意する必要がある。8月に海で泳ぐことなどが書き易い。

を聞き取る力もついていきます。入試直前になって慌ても間に合いません。教科書のQRコードやアプリ、動画サイトなどを活用しましょう。洋画や洋楽もいいですが、必ず音声のSCRIPT（本文の原稿）があるものを使わないと効果はありません。音声と実際のSCRIPTを照らし合わせて、自分の思っていた音と違う部分を修正し、シャドウイングなどで自分でも発音できるようにしていくことで聞き取る力もつくのです。

⑤最後に

現在の教科書では中1の段階で、すでに小学校である程度の英単語と英語表現を習得していることを前提に内容が構成されています。教科書を見て、そうした既習内容に自分が知らないものが出てきた場合は、必ず確認したり覚えたりするように努めましょう。それに加えて中学での新出内容も出てきた時に覚え、繰り返し練習して、いつでも瞬間的に意味がわかったり、言いたいことを英語で表現できたりすることを目指していくことが必要です。語学はスポーツや楽器の習得と同様に、単純な基礎練習の継続（英単語の暗記、基本例文の暗唱、英文の聞き取りの習慣など）が最も重要です。ゆったりやらなかったりするのでなく、短い時間でも触れる機会をできるだけ増やしましょう。

現在の学校教科書で使われている英単語や表現は、中3が英検準2級程度のレベルとなっており、英文の分量も増え、以前より実用的な英語で構成されていますので、英検に挑戦して総合的な力を磨くのもいいでしょう。また、生きた英語に触れるなら、ちくしんのRevo-Englishが最適です。読む・書く英語と、話す・聞く英語の相互作用や、ネイティブ相手に実際に使いながら学ぶことで強く印象に残ります。最近はスマホのアプリや中学生用の無料動画なども多いので、自分に合った続けやすい方法で英語学習に取り組んでいきましょう。